

エコ・あぐり・タウン くねっぷ 応援団だより

平成27年1月22日発行 NO.38

訓子府町の「ふるさと応援団」にご参加いただき、ありがとうございます。みなさまと訓子府町を結び便りにできればと考えております。

★訓子府小学校 開校1世紀を祝う

訓小の開校100周年記念式典が1月22日に訓小体育館で行われ、237人の全校児童を含め約350人が「1世紀」を祝いました。

大正3年に前身の訓子府教育所から昇格し訓子府尋常小学校として歴史が始まりました。

「みがく・かかわる・ひらく」の校訓の下、昨年3月末までに11,000人以上が卒業しました。



式典では、記念事業協賛会の平田康弘会長の式辞や佐藤和俊校長らのあいさつ、歴代PTA会長などへの感謝状贈呈があり、全校児童の合唱で、開校2世紀に向かい発展を誓いました。

応援団トピック

★訓子府消防100年の歩み

訓子府消防の始まりは大正4年。当時の西製軸（マッヂ）工場が中心となり「私設訓子府消防組」を組織したことを起源とし、平成27年に100年を迎えました。

釧路から訓子府に進出した草野製軸訓子府工場が、大正2年に手押しポンプを備え、工員に訓練して万に備えた消防組織が誕生。この2年後に訓子府は、駅前市街など人口が急増、工場火災などもあり、消防詰所を現消防庁舎のところに建設。以来、町民の生命・財産を守る活動を続けています。

第10回まちづくり推進会議開催

第10回となる「まちづくり推進会議」が12月19日に開催されました。

地域企業として日頃より地域に貢献していただいている北海道クノール食品㈱では、10月に事務所棟「ミナミナ館」を新築し、棟内には来訪者向けのゲストホールや本町の特産品紹介コーナーなどが設けられたということもあり、今回の会議のテーマを「地域企業と特産品開発について」とし、初めての試みとなる、工場見学と試食会を行いました。

会社概要の説明から始まり、工場見学、試食会と約3時間にわたる会議となりました。

試食会では、町内のイベントなどで活躍されている女性5名の「野菜倶楽部」の皆さんに調理をお願いして、クノール製品と地元特産品をコラボレーションした料理を試食していただきました。

本町の地域企業に関することや特産品開発などについて話し合いがなされ、委員の皆さんからたくさんの意見やアドバイスなどをいただきました。



1(ワン) Day Shop うえるかむ

商店街の空き店舗を活用した「1(ワン) Day Shop うえるかむ」が12月14日、旧小澤商事に開店し、町内外から大勢の買い物客が詰めかけました。空き店舗ににぎわいを取り戻したいと、「野菜倶楽部」が、一日限りのイベントとして実施しました。

町内女性グループの手作りバッグ、広島県尾道市のドライフルーツや手作りジャムなどの販売をはじめ、石臼を使ったきなこ挽き体験や有機栽培の玉ねぎ販売なども行われました。会場には大勢の来店客が訪れ、空き店舗に活気が戻りました。

北海道常呂郡訓子府町東町398番地 訓子府町役場企画財政課
Tel 0157-47-2115 Fax 0157-47-2600
E-mail kikaku@town.kunneppu.hokkaido.jp
URL <http://www.town.kunneppu.hokkaido.jp/>

新成人へ「地方消滅論」を乗り越える たくましい生き方を!

1月11日（日）午後から20歳を迎えた41名の若者達に「訓子府に帰ってこい」「故郷に何かあったら駆けつけよ」とメッセージを送りました。同じ年代の北海道日本ハムファイターズの大谷翔平選手やフィギュアスケートの羽生結弦選手と同じく、若者が持っている私どもには考えられない秘められた潜在能力と無限の可能性こそが困難を乗り越える力です。パキスタンの17歳の少女、マララ・ユスワザイさんがノーベル平和賞を受賞され、武装勢力の脅威の中「世界中の子ども達が質の高い教育を平等に受けられるように行動したい」と述べています。今年も敗戦後70年の年、昨年の流行語大賞に「集団的自衛権」が選ばれ、陸上自衛隊美幌駐屯地から200名ほどの若い隊員が南スーダンに派遣され帰ってきました。安倍首相が訴える「積極的平和主義」は、日本の在りようが世界から問われています。紅白歌合戦でサザンオールスターズ・桑田佳祐がヒトラーを彷彿させるちょび髭で「ピースとハイライト」を歌い、ネットで賛否両論の意見が飛び交っています。また増田寛也氏の「地方消滅」が話題を呼び、北海道では147区町村が「消滅可能性都市」と警鐘、訓子府町も例外ではありません。商店街の店舗も櫛の歯が抜けるように閉店しています。私たちは政治と無縁であってはならないし、こうした昔ながらのお店屋さんがやっていたいけるような政治が求められます。水野和男氏は「資本主義の終焉と歴史の危機」の中で「成熟社会をどう生きるか、すべてを貨幣に置き換えてきた近代が終わりつつある。農村を離れることが善であり、強さだった価値観がひっくり返る時代だ。」と述べています。自分たちが住んでいる、生活する場所から物事を考え発想することを大切にしていきたい。



←応援団だより担当の
中島も新成人です。

町長's Eye



新成人の門出を祝う ～成人式開催～

平成27年訓子府町成人式が成人の日の前日、1月11日（日）に町公民館で行われました。

当日は振袖やスーツなどの華やかな晴れ着に身を包んだ新成人41人が集い、大人への第一歩を踏み出しました。

式典では、町民憲章を朗唱したあと、新成人代表に記念品が贈呈され、新成人としての誓いの言葉を述べました。



式典終了後の交流パーティーでは、訓子府町産の食材を生かしたオードブルが出されました。このオードブルは、町内で農業を営まれている、ビストロKUNNEPPU代表も務める石川修さんが、腕によりをかけて毎年作っていただいているものです。

おいしい料理と、久々の友人たちとの再会で、交流パーティーは大変盛り上がりしていました。



奇跡の人 生熱演 ～劇団「訓子府座」旗揚げ公演～

訓子府町と近隣の若者20人でつくる劇団訓子府座(但野亜佐子座長)の旗揚げ公演「奇跡の人 ものには名前がある」が12月23日、町公民館で開かれました。「見えない、聞こえない、話せない」という三重苦のあるヘレン・ケラーと、その家庭教師アニー・サリバンが育む絆を描きました。訓子府座は、かつて町内で営業していた劇場名から名付け、8月に結成。夜間を中心に稽古を続けてきました。



公演は、ヘレンの誕生からサリバン先生との出会い、アルファベットを指で表す指文字の指導を通じて2人が信頼関係を築き、ヘレンが「水」を意味する英語のウォーターを理解する物語です。出演者の約1時間にわたる熱演に会場した約230人から大きな拍手がわきました。但野さんは公演後「かつての劇場の訓子府座が愛されたように、親しまれるような劇団にしていけるように頑張ります」とあいさつをしました。

訓子府の元気づくり

訓子府町では、基幹産業の農業や商工業などの連携で、イベントの展開や特産品のPRなど、近年活発な活動が見られます。

障がい者就労支援と 安全・安心の加工品

★「シソ飲料を活用した特産品づくり」

障がい者の自立支援と就労の場創出を目的としているNPO法人きらきら本舗は、役場内の喫茶「たんぽぽ」を営業し、シソ飲料「紫式部」を平成24年度から製造しています。

また、シフォンケーキの販売をはじめ、今年は、シソ飲料を使ったロールケーキやひやむぎを製造、販売しています。

こうした各種事業は、障がい者の就労の場を確保するとともに、食の安全などをめざし、自らが生産したシソを使うことによる安全・安心の提供、さらに新たな訓子府の特産品創出につながっています。

シソ飲料を使った特産品づくりは、「福祉」の事業として発信され、今後、異業種も含めた連携により、地域づくり、まちづくりへとつなげていく予定です。



訓子府ブランド確立へ

★じゃがいも「スノーマーチ」

北見農業試験場で開発された病害虫に強い品種、「訓子府育ち」のじゃがいも「スノーマーチ」。

平成20年から町内11戸の農家で70aの栽培が始まり、現在では、栽培農家が北見の農家も含め52戸で64haまでに増えています。

訓子府町馬鈴薯耕作組合は、毎年じゃがいもの販売促進に取り組んでおり、平成26年度は、小中学生への食育を通じてPR活動の展開や「ご当地メニュー」づくりを行う予定です。

また、スノーマーチ普及委員会の元役員らで焼酎「訓粹」の売り込みにも取り組んでいます。

平成27年度以降もさらなるステップアップをめざし、各種活動に取り組み、スノーマーチの知名度を向上させるとともに、訓子府ブランドを確立させ、訓子府から全国への発信をめざし、農業の町・訓子府をアピールします。

